

## R. H. 英語英文学科・3 年次

### I. 留学レポート

#### ① 協定留学を目指した理由

大学入学と同時に京都に来たことで、新しい出会いがたくさんあり、自分の視野が広がったことで、もっと世界を見たい・知りたと思うようになり、長期留学したいという漠然とした夢を持ちました。本格的に留学を考え始めたのは1年の冬でした。TOEFLの点数が留学の基準に達していないため、すごく悩み、長期留学じゃなくてもいいのではないかと一時は諦めそうになりました。しかし大学生でしかできないことを思いっきり経験して楽しみたい・後悔したくないと思い、本気で協定留学を目指すようになりました。

#### ② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

ESS 部に入り京都の観光地で英語ガイドをしたり、他大学の国際交流サークルに入って留学生をサポートするボランティアをしたり、外国人観光客が多い京料理屋のレストランでアルバイトを見つけたり、積極的に英語を喋る機会をつくっていました。また国際課が開催している夏の TOEFL 合宿に参加もしました。勉強漬けでしたが自分の苦手を見つけ集中して対策することができ、また留学を目指している仲間と出会うこともできたのでとてもいい思い出です。合宿後も国際課のスタッフさんに何度も相談に行き IELTS の勉強方法を教えてもらったり、アドバイスを頂きモチベーションを上げていました。

#### ③ 留学決定から出発までの準備期間

現地の学校から留学の許可書が下りるのが比較的遅く、3月上旬だったため、そこから My Chatham の登録やビザ申請、予防接種などやるのがたくさんあり大変でした。分からないことだらけで戸惑うことが多く、一緒の大学に行く友達と協力をして進めていました。特に予防接種はどれを打つのか迷いましたが、京都府立医科病院が海外渡航の予防接種を扱っていたので、詳しく教えていただきました。結局最低限のワクチンしか打っていませんが、8万程度はかかりました。渡米前の勉強は単語を勉強する程度しかしていませんでしたが、リスニングや会話の勉強をすればよかったと後悔をしています。

#### ④ 現地到着後

現地に到着後、留学先の International Office のスタッフさんが迎えに来てくれました。その後3日間くらいはオリエンテーションがあり、学校施設の案内・寮の使い方の他に学校周辺のツアーをしてくださいました。スーパーで買い物に付き合ってくれたりバスの乗り方を教えてくれたりととても親切にサポートしてくれました。

## ⑤ 語学研修期間

### ◆ 語学研修先の施設・環境について

語学学校の最初のクラスメイトの 7 人中 5 人が日本人であり、またルームメイトも日本人でとても驚きました。その他はサウジアラビアとベトナムのクラスメイトがいました。現地の学生が夏休み中に実家に帰省したりインターンシップなどに行っているため、学校内は静かでほとんど留学生しかいませんでした。寮も最初は日本人しかおらず、静かで怖かったです。しかし途中からインターンシップや学校でアルバイトをしているアメリカ人が引っ越してきたため少し賑やかになりました。

### ◆ 授業内容、課題、試験

リスニングとリーディングのテストでクラス分けがありましたが、人数が少なかったため、2 つのクラス合同で授業が行われました。月・水曜日は US Culture と Grammar の授業があり、火・木は Communication Skills と Writing の授業がありました。1 コマ 2 時間 15 分と長いですが、途中で休憩もあるので慣れたらあっという間に感じます。特に Communication の授業は TED をたくさん見たり、慣れないグループディスカッションや自分でクラスメイトにディベートを展開する授業もあり、とても大変でしたが確実に力がつきました。Writing の最終エッセイもアカデミックな内容を最低 6 枚書かなければいけなかったのが大変でした。

## ⑥ 正規科目履修期間

### ◆ 大学の施設・環境について

秋になり帰省していた現地の学生がたくさん寮に戻ってきたので今までとは環境がガラッと変わりました。静かだった学校も学生が増えたことで活気が出て、最初の方は毎日のようにイベントがありました。また、違う寮に移動をし、アメリカ人 2 人とルームシェアをしました。

### ◆ 履修科目

#### ・ American Culture and Cinema

アメリカ映画を通してアメリカ文化や映画の技法を学びました。ホラーやフィクション、サイエンス、戦争、家族の絆を描いた作品など色々な時代背景の作品、異なるジャンルの映画を見ることができ楽しかったです。見た映画について外でクラスメイトとディスカッションをしたりもしました。中間テストと最終テストは観た映画に関する内容把握問題、時代背景、単語テストをしました。

#### ・ American Literature

週 3 回の 1 回 50 分の授業でアメリカ文学や作品の技法について学びました。児童文学や

思春期の子供の心を描いた作品、貧しい家族の絆を描いた作品、戦争中の話など子供や家族に関わる作品をたくさん読みました。毎回作品を読み終わった後は、今までに読んだ作品を比べて共通点・違い・感想をまとめたレポートを提出しました。単語や熟語のテストや中間テストが何度かあり、習った文学の作者の背景、内容に関する問題、文学の技法などが問われました。

#### ・ Chatham Semester International Internship Preparation Seminar

週 1 回の授業で、アメリカの仕事の基本やマナー、就職活動について学びました。日本の仕事文化と比較をし、アメリカの文化についても深く学ぶことができました。実際に履歴書やビジネスレターを書いて先生が添削してくださったり、面接などもロールプレイングで経験できました。最後は興味を持った企業について深く調べプレゼンテーションをしました。

#### ・ Yoga relaxation

週 3 回あり唯一のリラックス時間でした。ハードなヨガでしたが、そこまできつくはありませんでした。最初は専門用語や体のパーツの英語が分からなくて戸惑ったりもしましたが、何回もやっていたら分かるようになりました。また間違っているときは先生が優しく教えてくださいました。時々天気がいい日には外でヨガをすることもありすごく楽しかったです。定期試験はないので出席していれば単位がもらえます。

#### ⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

語学学校中は大学からバスで 15 分のカーネギー図書館に行き、日本語クラスのボランティアに参加をしました。初級と中級のクラスがあり、課題が忙しくないときに気軽に参加をしていました。日本に興味を持ってきている現地のアメリカ人と仲良くなれたので行って良かったと思っています。秋学期からも Chatham の日本語クラスの授業にボランティア参加をしました。日本語を教えるのは意外と難しかったですが、とても楽しかったです。International Club にも入っていましたがほとんど活動がなかったです。

#### ⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

語学学校中は Rea House という寮で同女から一緒に来た友達と 2 人部屋でした。部屋は意外と広く、押し入れもたくさんありましたが、日光が入らず日中すごく暗かったです。そのため電気スタンドは必須で、スーパーにも売っていましたが、International Office のスタッフさんから過去の先輩が置いていったスタンドを貸してもらってました。寮の中も最初は日本人 5 人しか住んでおらず静かで怖かったです。途中から何人かのアメリカ人が寮に引っ越してきました。共同のトイレとシャワーを使っていましたが、シャワーの調子が悪くお湯が出なかったり、髪の毛が排水溝に詰まり、水が全然流れなかったりするもありました。食事はミールプランが使えなかったため、スーパーで食材を買って自炊をしてい

ました。1 \$ ショップや中古のお店で包丁、まな板、鍋、フライパンなどのキッチン用品を安く買い揃えたり友達と共同で使っていました。しかしキッチンに食べ残しの食べ物や洗っていないお皿が置いてあることが原因で虫が大量発生することも多々ありました…。

秋学期からは Laughlin という隣の寮に引っ越ししました。アメリカ人 2 人とルームシェアして隣の部屋の子達と共同のトイレとシャワーを使いました。しかしトイレとシャワーが汚く、他の階の共同トイレを使うこともありました。1 人のルームメイトは毎日笑顔で挨拶をしてくれたり会話もしていましたが、もう 1 人のルームメイトは毎日のように夜中にパーティーに行き朝帰りをしていたので生活が合わず、コミュニケーションをとるのに苦労をしました。また 3 人で部屋にいる時に 2 人がスラングで会話をしていたり、噂話やアジア人の悪口が聞こえ、辛い思いをすることもありました。しかし気にしないで堂々としたり割り切ることで気持ちが楽になり、ルームメイトと上手に付き合えるようになりました。

### ⑨ 長期休暇の過ごし方

長期休暇は旅行に行きました。夏休み前半は NY に 1 人で行き、日本から来た家族と合流をして 4 日間観光をしました。夏休み後半は友達とフロリダのディズニーランドに 3 泊 4 日で行き、すごく楽しかったです。冬休みは 1 週間 LA に韓国の友達と旅行に行き素敵な思い出となりました。

### ⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

ニューヨークでマイナビが開催しているキャリアフォーラムとボストンで開催しているボストンキャリアフォーラムに参加しました。どちらも説明会兼選考だったため当日までに自己分析をしたり、ES を書いて同女のキャリアセンターにメールを送って添削してもらっていました。どちらもレベルの高い学生が多く刺激を受けれたので行ってよかったとは思っていますが、帰国してからも就活の準備はできたのでそこまで焦らなくてよかったと思っています。

## II. 留学の感想

### ① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

現地の子や他国の子と交流をしたり、仲良くなって一緒に美術館に行ったり、オペラやミュージカルを聞きに行ったり、カフェやレストランに行ったり、ショッピングに行ったり…そんな日常がとても楽しかったです。他国の友達から文化を学ぶことができ、日本の文化や日本人を客観的に見れたり、時には政治や世界問題について意見を交わし考えさせられることもたくさんありました。一番思い出に残っていることは冬休みに 1 週間韓国の友達と LA に旅行に行ったことです。

## ② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

言語の壁にぶつかったり、異なる国の人と暮らす中でカルチャーショックにあったり、コミュニケーションが上手くいかなかったり、衛生環境の悪さで体調不良になったり、差別や偏見を感じたり…と自分が外国人になって初めて気づく苦労と辛さがありました。また日本人が多い環境だったため常に日本語が飛び交う環境が辛かったです。しかし意思をしっかりと持って積極的に行動することの大切さを学び、日本での生活がいかに恵まれていたかということに気づくことができたので、今となってはいい思い出です。

## ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

現地の学生は日本の学生と違ってとても勉強熱心でとても刺激を受けました。また、Thanks Giving Day や Christmas Day などの家族を大切にする文化が多いことが素敵だと思いました。男女問わず挨拶や別れの時にハグをする文化は最初抵抗がありましたが、慣れたら気にならなくなりました。また、ルームメイトが部屋の中で大きい声で家族や友人と電話をしたり、シャワーを朝入る習慣はびっくりしました。

## Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

### ① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点はキャンパスにリスやシカ、ウサギなどがいて自然豊かな環境であったのにも関わらず、大学周辺は都会すぎず田舎過ぎずちょうどよかったことです。近くにスーパーやショッピング街、レストランがたくさんあったので便利でした。そして少人数の授業も多く、アットホームで先生との距離が近い点です。日本に興味を持っている先生やスタッフさんも多く、いつも気軽に声をかけてくれたり親切にしてくださいました。さらに秋学期以降は International Office のスタッフさんが留学生のためにイベントやフィールドトリップを開催してくれました。時には自宅に招いてくださり、一緒にクッキーを作ったりバーベキューをしたり、外で遊んだり、日本食や韓国料理のパーティーを開催してくれたのでたくさん国際交流ができました。

悪かった点は留学生の中での日本人の割合が圧倒的に多かったことです。常に日本語が飛び交う環境でしたが、国際交流をしたいという気持ちで積極的に現地の子や留学生に話しかけていた子もたくさんいたのでその子達からたくさん刺激を受けました。さらに小さい大学だったため留学生に対して閉鎖的な現地の学生もたくさんいました。最初は落ち込みましたが、日本に興味を持ってくれ仲良くしてくれる子もたくさんいたので気にしすぎないことが大事だと思いました。

## ② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

大学のパソコンはサーバーがいることもあったので、パソコンは必需品でした。その他には私はシャンプー・リンス・化粧品・生理用品は日本からたくさん持って行って良かったなと思っていますが、アメリカで購入している子もいました。日本食も日本食スーパーがありますが高いので、親に送ってもらっていました。

## ③ 語学力の上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学当初はネイティブの速いスピードについていけなかったり、発音が悪く自分の英語が聞き取ってもらえないことがたくさんありました。その度に自信がなくなったり落ち込むこともありましたが、途中からは間違いをすることを恐れず積極的にコミュニケーションを図れるようになりました。その理由としては英語が流暢に喋れることよりも、笑顔や身振り手振り、相づち、アイコンタクトなどのノンバーバルコミュニケーションの重要さに気づいたからです。何よりも「相手のことを知りたい・仲良くなりたい」という気持ちが大切で、上手く伝えられなくても相手は理解しようと努めてくれました。留学を通して英語がペラペラになったわけではありませんが、留学に行く前よりも自分に自信をつけることができたし、英語でコミュニケーションすることが大好きになりました。

## ④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学をする際には何か明確な目標を持つことが大事だと思います。私の場合は国際交流をたくさんしたいという目標だったため、最初は目標を見失いそうになりましたが、壁にぶつかった時はいつも初心に戻って目標に近づく選択をしていました。現地で自分が外国人になって初めて気づく苦勞と辛さもありますが、それを乗り越えたとき、自分の価値観が大きく変わったり、語学力の向上を実感できたり、留学に行く前より大きく成長することができます。留学は新しい出会いがたくさんあり、旅行をたくさんしたり、自然の中で遊んだり日本では経験できないことがたくさん経験できます。いい意味でも悪い意味でも自分の知らなかった世界をたくさん知ることができます。大学生でしか経験できない留学生生活を思いっきり楽しんでください。

## IV. 将来の目標

### ① 今後の進路、将来の目標・夢

留学で学んだことを生かしてこれからも英語コミュニケーション力を磨き続けたいです。そして将来グローバル社会で活躍できる人間になりたいです。

## V. 写真



語学学校のクラスメイトと先生とジップラインに行きました。大自然の中で遊べてとても楽しかったです。アクティブなことが大好きな先生なのでその他にサイクリングや遊園地などにも連れてってくれました。



現地のアメリカ人と中国人の友達とハイキングに行きました。急な山道もあり大変でしたが、山からの絶景はとてもきれいでした。



冬はとても寒く、帰国日は $-18^{\circ}\text{C}$ でした。しかし寒い雪の中でも雪だるまを作ったりして思いっきり遊びました。



韓国の友達と LA のディズニーランドに行った時の写真です。クリスマスシーズンでどこ行っても可愛くて一生の思い出になりました。季節に関わらず LA は暖かくて半袖を着ていました。Hard Rock Café のお揃いのバックも買いました。

## S. M. 英語英文学科・3 年次

### I. 留学レポート

#### ① 協定留学を目指した理由

留学は高校生の頃からの目標でした。英語に特化したクラスで勉強し、コミュニケーションの授業を受けていく中で、その時の実力ではなかなかスムーズに意思疎通できず、もどかしさを感じていました。語学力を上げて経験できることを増やしたいと思いその頃から留学を意識し、英語の学部に入学しました。

#### ② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

私は点数の一番取りやすかった TOEFL ITP で出願しようと考えていたので、購入した参考書や図書館においてある参考書を何度も解いて対策をしました。

#### ③ 留学決定から出発までの準備期間

アメリカの大学は読む量がとても多いと聞いていたので、洋書を毎日少しずつ読んでいました。書類等の提出はもらったらすぐ提出をするようにしていました。予防接種に時間がかかると聞いていたので、早めに予約を取るようになっていました。私の行った病院は、以前にもチャタム大学の留学生の診察をしていたらしく、全ての予防接種が終わるまで、スムーズに進んだと思います。ビザ申請はオンライン上で手続きの仕方を調べ、こちらもチャタム大学から必要な書類が届き次第すぐ取りに行きました。

#### ④ 現地到着後

チャタム大学の国際課のアドバイザーの方が、空港まで大学の車で迎えに来てくれました。空港から大学までは45分程度だったと思います。大学に向かいながら、お勧めのお店などを紹介してくれました。他大学の日本人留学生の到着を待つ間、国際課のスタッフをしていた卒業生が大学内を簡単に案内してくれて、学生IDカードを作るのを手伝ってくれました。到着後、アドバイザーの方がおすすめのピザ屋さんに連れて行ってくれました。翌日は1日あいていたので、大学の近くを案内してもらいました。私は現地のSIMカードを使ってiPhoneを使用できるようにしようと思っていたので、T-Mobileにアドバイザーの方と行きましたが、日本のSIMがロックされていたので、少し手間がかかりました。

翌々日はオリエンテーションでアメリカでの生活やESLについての説明を受け、クラス分けのためのテストを受けました。

#### ⑤ 語学研修期間

##### ◆ 語学研修先の施設・環境について

チャタム大学のESLの授業を受けました。最初にテストを受けてクラスを決めます。私の

クラスは8人中日本人が5人いました。ESL のプログラム期間中は、現地の学生の多くが夏休みなので、大学内はとても静かでした。先生はとても親切で、毎日楽しく授業を受けることが出来ました。図書館は夜中2時まで空いているエリアがあります。また息抜きに大学のジムに運動をしに行っていました。

#### ◆ 授業内容、課題、試験

月から木までの週4日の授業でした。アメリカの文化を学ぶ授業では、アメリカについて書かれているテキストを読み、そのお題についての問題を解き、毎トピックごとに単語テストとオープンブックテストをしました。またアメリカのドラマを教えてもらったり、そのドラマを少し見たりと映像を通してアメリカの生活の特徴、文化等をみんなで読み解いていく授業でした。課題は単語とリーディングがほとんどで、2回の試験も習った単語とテキストやプリントの内容から出たものでした。単語学習では、Quizlet を使いました。

グラマーの授業では、先生が作ったテキストを使用して基本的なグラマーから、エッセイを書く上で大切なポイントを勉強しました。書いたショートエッセイを先生が細かく見てくださり、理解を深めました。テストは習ったグラマーの問題と、ショートエッセイでした。コミュニケーションの授業では、トピックごとに課題として Ted トークを見て問題を解き、その内容についてディスカッションをしました。中盤からは、生徒1人1回ずつその授業のリーダーとなり、授業を作りました。最終プレゼンでは多くの人が知らない世界で起こっている問題を1人ずつプレゼンしました。テストはプレゼン以外にノートテイキングをして問題に答えるテストがあり、とても難しかったです。

ライティングの授業では、大学でのエッセイのために、軸となる書き方や要約の仕方、また引用の仕方やそのルールについて学びました。数回の授業に分けて数回エッセイを書き、そのたびに先生がチェックをしてくれました。テストは授業で習ったエッセイの書き方に気を付けながらエッセイを書くものでした。最終エッセイでは、8枚以上書かなくてはならず、たくさん参考文献を読み、アンケートを取ったりとても大変でしたが、達成感がありました。

#### ⑥ 正規科目履修期間

##### ◆ 大学の施設・環境について

語学学校期間でキャンパス内での生活には慣れていました。正規の授業が始まってからは、ミールプランを使用し、ほとんどの食事をカフェテリアか食堂でとっていました。果実や豆乳を使用したスムージーを作ってくれるところもあり、勉強のついでに利用していました。図書館は24時間空いているスペースがあり、グループで勉強するスペース、また個人部屋もありました。私は勉強するときに個人部屋をよく利用していました。ピアノを使用できる建物もあり、ここも息抜きでたまに使用していました。また学内でのイベントや部活の大会

等があり、そこに友達と参加しました。

◆ **履修科目**

◆ **授業、レポート、定期試験**

• **Introduction to Film, Video, and New Media**

映画が好きで、映画について学びたいと思い選択しました。映画を作るうえで、なぜこのシーンではこのカメラワークや色、モノや植物また音楽が使われているのかを講義から学び、映画を見てディスカッションをしました。リーディングが課題で、自分の考えを答える問題が小テストでした。中間テストは小テストと同じ形式で、最終テストは全体の授業を通した問題でした。Taking Home 形式だったので教科書を見ながらできますが、読む量が多いので、あらかじめ読んでおくことが大切でした。教授はとても親切で、キャンパス内ですれ違うといつも何かあれば連絡しておいでねと声をかけてくださいました。

• **Multicultural Literature**

アドバイザーの人に勧められて、私自身リーディングに苦手意識があったので、挑戦したいと思い選択しました。短編小説を3つ、小説を8冊読み、映画を1つ見ました。小説はどれもアメリカに住んでいる移民の話で、中には日系アメリカ人の話もありました。平均して3回の授業で1つの小説をディスカッションを通して読み解いていく授業でした。課題はリーディングで、1回に100ページ近く読むこともあり、とても大変でした。小説ごとに簡単な小テストがあり、担当の小説についてのグループプレゼンが1回ありました。テストはそれまで扱った小説の一節がいくつか抜き取られ、誰のどの小説かまたその状況と重要点を答えるもので、一番難しいテストでした。

• **Chatham Semester International Internship preparation seminar**

アメリカでの働き方について学びたいと思い選択しました。アメリカでの働き方やレジユメの書き方を学び、また企業研究などをしました。また面接の練習をしたり、日本とアメリカの仕事に関する違い等を話しました。リーディングをして、先生が出した問いに対して自分の答えを回答するのが課題でした。テストは、自分の興味のあるアメリカのグローバル企業についてのプレゼンテーションでした。生徒はみんな日本人で、先生も気さくな方で毎回お菓子を持ってきてくれました。

• **American Culture and Cinema**

ELP の時の先生で、映画に関するものだったので選択しました。アメリカの映画を見て、その映画に関する事柄や映画中の単語、また言い回しを学びました。たくさん映画を見て、その映画についてクラスメイトと話したりと、毎回楽しく授業を受けることが出来ました。課題は自分のおすすめの映画について調べる等ありましたが、毎回ではありませんでした。

テストはそれまで授業で見た映画についてその内容や単語についてでした。

#### ・ Yoga & Relaxation

週に2回、ヨガをしました。ハードなものもありましたが、そのほとんどは気分がリラックスするようなものでした。初めてやりましたが、先生も丁寧に教えてくれて、気分転換になりました。テストはありませんでした。

#### ⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

交流できる場を作りたかったのと、部活を通してずっとやっていたバドミントンがやりたかったので、ピッツバーグのバドミントンクラブに参加していました。

またチャタム大学の日本語クラスの先生と連絡を取り、クラスのボランティアをしました。

#### ⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

住む場所やルームメイトは学校側に決められます。語学研修期間は寮で、一緒に行った同女生と2人部屋でした。敷地内にあるので、キャンパスまでは徒歩約5分程度でした。ミールプランが使用できず、毎回学食に行くとお金がかかるので、近くのスーパーに行って自分たちでご飯を作っていました。昼食を作って持ってくる生徒もいれば、校舎から寮まで近かったのも、食べに帰る生徒、またカフェテリアで購入する生徒もいました。シャワーとトイレ、キッチン、洗濯機は寮で共有でした。ハウスキーパーの人が掃除をしてくれるのである程度の清潔さは保たれていました。休日はハウスキーパーの人がいないので、キッチンにハエが飛んでいる状況でした。

正規科目履修期間は大学のアパートでアメリカの学生2人と3人で生活していました。アパートからキャンパスまで毎回階段を上らないといけなかったのもたいへんでしたが、部屋にキッチンとシャワー、トイレがついていたのは便利でした。食事はミールプランを使用してカフェテリアと食堂を使用していました。私は食事が口に合わないということはなく、最後まで食堂を利用していました。

#### ⑨ 長期休暇の過ごし方

語学研修終了後は、正規授業のオリエンテーションが始まるまでアメリカ国内を旅行しました。正規授業期間中には国際課からナイアガラの滝に連れて行ってもらい、サンクスギビングの休暇中は、友達の家に行かせてもらいました。アメリカ国内の旅行は、飛行機やホテルを少し工夫することで思っているより安く済ませることが出来ました。日本から行くとなるとすごくお金がかかるので、アメリカに留学に行ったらいろんなところに行ってみるのもいいと思います。

#### ⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

ウェブサイトを見るのがほとんどでしたが、アメリカで行われたキャリアフォーラムに

参加しに行ったりもしました。

## Ⅱ. 留学の感想

### ① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

勉強の合間に友達とご飯を食べたり、他愛もない話をしたりしたことが私にとって楽しい時間でした。また国際課の方の家でパーティーをしたり、個人的に友達とご飯やショッピングに出かけたりすることで気分転換にもなりました。サンクスギビングホリデー期間に友達の家に行かせてもらったのは、アメリカの家族の温かさを感じることの出来た経験だったので、一番思い出に残っています。

### ② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

現地の学生と同じ授業を同じスピードでこなしていくのはとても大変でした。特に私はリーディングが苦手で、読むスピードが人より遅かったので、時間がかかりました。授業後にクラスメイトに復習を手伝ってもらったり、テスト前に一緒に勉強したことで、無事にやり切ることが出来ました。語学研修で勉強していたものの、いざ正規授業が始まるとやはり意思疎通が思うようにいかず、英語力に自信を無くすこともありました。話をして苦笑いされたときはとてもショックで、それから話すことが怖くなりルームメイトとも距離が遠くなってしまった時が精神的にとってもつらかったです。ですが、ちゃんと思っていることを伝え合うことで理解し合うことが出来て、一緒に生活しやすくなりました。

### ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

私のルームメイトはいつもお風呂に入っているのだろうと思うくらいお風呂に入らず、基本何をするにしてもベッドの上でした。人とモノを共同で使うことに慣れているのか文化なのかはわかりませんが、私の靴を勝手に使っていた時はとても驚きました。

## Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

### ① 留学先大学の良かった点、悪かった点

チャタム大学は小さな大学なので、教授と話しやすかったです。私が受けた授業の教授はとても優しい方ばかりで、顔を覚えてくれたり、気にかけてくれたりととても支えていただきました。語学学校の先生とは遊びに出かけたり、家に招待してくれたり、とてもいい方ばかりでした。大学の語学学校に通うので、正規授業が始まるまでに生活環境に慣れることが出来るのもいい点だと思います。また語学学校中の単位も交換可能なことが3年次に留学した私にはとてもありがたかったです。学生カードで市のバスや美術館に無料で入れたり、周辺に公園やレストラン、スーパーなど何でもあったので生活しやすい場所でした。

不便なく生活することが出来ましたが、悪かった点を挙げるとすれば Wi-Fi が弱くなったり、大学のホームページが動かなくなったりしたことです。便利さや清潔面で日本と差はありますが、それも経験と思うことで、ある程度のことは受け入れて過ごせると思います。

## ② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは必須でした。レポート等の課題はほとんどオンラインでの提出で、テストがオンラインで行われるものもあったので、持って行ったほうがいいと思います。ファイルは意外とアメリカで見つけるのが難しかったので、クリアファイルもあると便利だと思います。また肌が弱い人は使い慣れた化粧水や洗顔をもっていくと安心かもしれません。

## ③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

私が一番感じているのはリスニング力です。語彙がわからなくても、そのニュアンスや会話の流れから予測できるようになったと思います。スピーキングは、発音の良さはわかりませんが、話すということに緊張や恐怖心がなくなり、英語を勉強しているから間違えたら直していけばいいと考えるようになりました。

## ④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学を通して、楽しいことも辛いことも経験しました。留学をしなかったら出会わなかったであろう色々な国の人たちにも出会いました。留学したらよかったと思う後悔はあっても、留学しなければよかったという後悔はないと思います。私はずっと留学を目標に英語を勉強してきましたが正直なところ、したいしたいと口では言っていたもののなかなか行動に移していませんでした。もう少し早く勉強を進めていたらと後悔しないよう行動することが大切だと思います。私のモチベーションは、海外の写真を見てワクワクすることでした。なかなか点数が伸びない時もあるとは思いますが、自分が留学をしていることを想像して勉強を頑張ってください。

## IV. 将来の目標

### ① 今後の進路、将来の目標・夢

留学を通して経験したことを活かせる仕事に就きたいと思っています。また個人的に色々な国に行って、興味のあることにチャレンジし続けていきたいです。

V. 写真



ELP の時のクラスメイトです。本当に仲が良くて、最後のパーティーの日はスピーチをしながら泣いている生徒もいました。先生が遊びに連れて行ってくれたり、外にご飯を食べに行ったりしました。帰国した今でも連絡を取っています。



サンクスギビングホリデーに友達の家に行かせてもらった時の写真です。とても優しい家族で、サンクスギビングのディナーやブラックフライデーのショッピング等、様々なことを体験させてくれました。



ロングバケーション期間に国際課の方がナイアガラの滝に連れて行ってくれました。



私の Conversation Partner だった学生です。前に同志社女子大学に来たことがある学生で、日本語を勉強しているということもあってすぐに仲良くなれました。映画を見に行ったり、お寿司を一緒に作ったりしました。